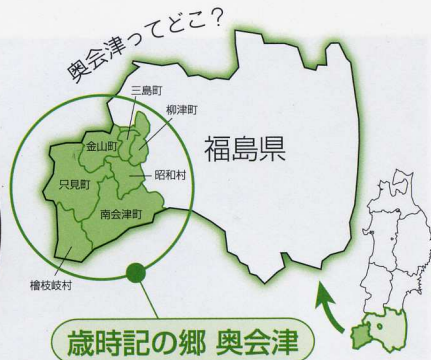


奥会津だより



今も暮らしに生きる民具を6回シリーズで紹介しします。- No.5 刺し子半纏 -



刺し子半纏(さしこばんてん)

布の補強のための刺し子を芸術的に昇華させたのは、夫の無事を願う女たちの思いの深さだった。

南会津町・南郷に残る刺し子半纏は、一家の嫁が夫のために作った儀式用の着衣である。男衆は村の大切な儀式や寄り合いには、これを正装として身に纏った。ここでは意匠や刺し子の技術が、嫁自慢、カカア自慢となる。こうして自慢着とも呼ばれるようになった。嫁の価値がこれで決まるといわれるほどに、男衆は公の場では必ず、ひと針毎に込めた妻の願いと巧みな手さばきを晴れやかに羽織ったのである。刺し子のパターンは多様で、とりわけ「麻の葉」は、奥会津では好んで使われた。生地は藍染の会津木綿。衿の家紋は入れないのが普通だが、この刺し子半纏では、家の歴史を代々伝えるために特別に施されている。

白い息空にむかってほっほっほ

磯目 理奈さん(柳津小)

第40号

—2007年新年—

雪の風景

さりげなく身の回りにある自然の宝物を紹介していきます。



①



③



②



④



⑤

- ① 南会津町館岩・前沢集落
わら葺民家が立ち並ぶ前沢集落は、斎藤清の版画の世界だ。
- ② 雪の伊南川
岩は大きなマシュマロのように雪で飾られた。
- ③ 霧氷
晴れた朝の木々は、華やかに氷をまもって美しい。
- ④ 雪下ろし(柳津町)
屋根の雪下ろしは危険な作業だ。必ず誰かが見守る。
- ⑤ つらら
地域によっては「カランコリン」「カナンコリ」ともいう。

写真/山浦 芳明

奥会津つれづれ

昨年十一月、只見町で行われた民具のシンポジウムでは、山や川、雪によって作り出された生業とそこで使われる民具について話を聞くことができた。昔から使われてきた民具が、いつどこから伝来したのか、何故その形になったのか、文献資料や時代背景を基に読み解くことができ、それぞれの民具の歴史の深さに驚かされた。

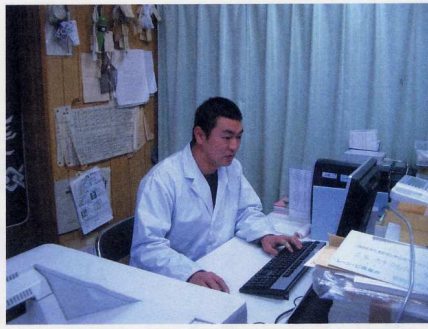
本誌では「暮らしに生きる道具」として、奥会津の各地で今も使われている道具を紹介している。地形や気候に合わせて作られた機能的な形状と自然の素材を用いた道具は、親から子へ、子から孫へと引き継がれている。

京都東山にある高台寺を訪れた際、現代の「東山百鬼夜行絵巻」を見た。古来より日本では生き物同様の道具にも魂が宿っていると考えられていた。絵巻には、原型を留めた道具たちが妖怪に変身して列をなし、五徳や鰐口の妖怪がユーモラスな表情で夜の京都を彷徨い歩く。やがて太陽が昇りはじめると、あわてて退散する姿が描かれている。

「針供養」や「刀供養」など道具に対する供養は全国各地で行われているが、只見川流域では旧暦の十月十日に「虫供養」が行われている。「虫供養」は知らず知らずのうちに殺めた虫たちの霊を治めると共に、五穀豊穡を願う行事である。万物に神が宿っているというアニミズムの精神が、奥会津には今も脈々と受け継がれている。(治)

蔵元で醸成される地域発信の輪

脇坂 齊弘さん（蔵人、南会津町南郷 32歳）



南会津町・南郷スキー場の麓に、奥会津では唯一の蔵元・花泉酒造がある。ここで働く脇坂齊弘さんは、郡山から移住して6回目の冬を迎えた。好きな日本酒作りに携わりながら、日ごとに深まる地域の魅力を、インターネットを通じて発信しはじめた。雪深い山村の暮らしを謳歌する蔵人は、すっかり地域に溶け込んで、仲間たちと共に未来に結ぶ豊かな夢も醸成している。

遊びを大事にしている方々から、そうした楽しみ方を教わりました。こんなに楽しいんだから、いろいろな人に発信したいと思うようになって「南会津ドットコム」を立ち上げて管理しています。

南郷は季節のメリハリがはつきりしています。住んでいる人々はとてもフランクですし、厳しいと言われる冬は、むしろ暖かい。防寒を考えた家屋の作りだからでしょうか。除雪体制が整っているので、道路はきれいに整備されて安全です。住みいいところですね。

今、4歳と10ヶ月の2人の子供がいますが、子供たちにもその楽しみ方を伝えたいと発案したら子供の同級生の親御さんたちが集まってきて、「おやじの会」ができました。年4回子供たちと一緒にさまざまなことをして遊びます。中でも好評なのが「雪上運動会」ですね。スキー場に来ていた人たちも誘って、70人ぐらいになります。

みんなが楽しみながら、南郷に住んでて良かったと思ってもらえる地域にしたい。それが大きな夢ですね。

（談）

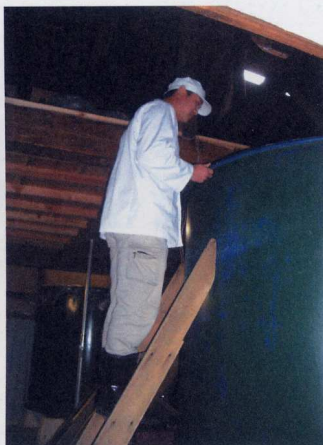


発酵しているもろみ

結婚を機に、2000年にこちらに移住してきました。それまでは建設現場の現場監督をしていましたが、酒作りは面白い。学生時代に日本酒の味を知って、その中で仕事ができるというのは魅力でしたから、この仕事はとても楽しいですね。プライドをもって、楽しみながらこだわりの追求できます。

飲み比べてみて、おいしい酒はたくさんありますが、この花泉は自分に合った酒でした。今、担当しているのは麹作りです。温度管理をするために寝ずの番をしながら4日毎に交代で泊り込みます。仕込みは10月から5月のゴールデンウィーク明けまで。この間は休みはありません。大変だとは思いませんね。仲間たちと一緒に作った旨い酒を呑めるのですから。もろみを覗いてみますか？きれいですよ。

蔵人の仲間がUターンしてきた方がたくさんいて、イワナの掴み方やきのこの採り方など、季節の楽しみや



もろみの発酵状態を見る脇坂さん

南会津の輪！

<http://www.minami-aizu.net/>

南会津 .com

<http://www.minami-aizu.com>

只見線物語 ⑤

奥会津の暮らしを見つめてきた只見線。列車が紡ぐ四季の風景。橋梁に小さな振動が伝わってくる。雪をかぶった杉木立から列車が顔を出す。真っ白な雪と赤い橋、その向こうを駆け抜ける気動車。真冬だからこそ一瞬の「鮮烈」。かじかむ指先のことも忘れ、過ぎ去った列車の名残りを、ひとり静かに聴いていた。

絵・文 松本 忠

1973年生まれ イラストレーター
東北地方の路線を中心に、全国各地の抒情性溢れる鉄道沿線風景を描いている
共著：『のんびり行く只見線の旅』（歴史春秋社）

「ひとやすみ」
只見線只見（福島県只見町）



1月 3月
奥会津イベント情報

三島
ものづくり体験ツアー



編み細工を体験するもの作りツアー。ヒロロのかこ、またはマタビの杖を、材料を仕立てるところから作ります。

◆日程
平成19年
①1月19日(金)
②2月16日(日)
③2月18日(日)

◆場所
三島町生活工芸館

◆参加料
無料

ヒロロの籠コース 32,000円
マタビ籠コース 25,000円
作業しやすい服装でおいでください。また、マタビ籠コースご希望の方は、当日汚れてもいいタオルをご持参下さい。

◆定員 15名
◆問合せ 三島町観光協会
0241(48)5000
◆メール nishima@town.nishima.fukushima.jp

2月
雪まつりの情報

柳津
第27回 会津やないづ冬まつり

県内で最初に行われる冬まつりで会場には雪像や模擬店が並びます。節分豆まきや柳津名物「あわまんじゅ」の早食い競争など、誰でも楽しめるイベントが盛りだくさん。

◆日程
平成19年2月3日(土)・4日(日)

◆場所
柳津町 道の駅「会津柳津」周辺
会津やないづ冬まつり実行委員会事務局
(役場観光工班内)
0241(42)2114

只見
第35回 只見ふるさとの雪まつり



雪上ゲーム、丸太の早切り大会などの来場者イベントの他、夜には厄男による「厄払いの儀」やメインイベントである花火おめでた祈願花火が打ち上げられ、白銀の世界を彩ります。

◆日程
平成19年2月9日(金)前夜祭
10日(土)・11日(日)メインイベント

◆場所
只見町JR只見駅前広場
只見町観光まちづくり協会
0241(80)5250

冬の夜空に立つ勇壮なサイの神の火柱と冬の夜空に舞う綺麗な花火の共演を見においでください。

◆日程
平成19年2月10日(土)

◆場所
三島町 町民運動場

◆問合せ
三島町観光協会(三島町役場産業建設課内)
0241(48)5533

◆参加料 一人2,000円
◆定員 無し
◆問合せ 南会津町教育委員会
伊南分室内 伊南杯事務局
0241(76)7718
◆メール t-hirono@minamiazu.org

芸能発表や味自慢コーナーで地元風味が味わえる他、歳の神などが行われます。

◆日程
平成19年2月18日(日)

◆場所
金山町中川地内 町民体育館周辺

◆問合せ
金山町役場地域振興課観光係
0241(54)5327

会津駒ヶ岳を見下ろし、一気に滑り降りるダイナミックなコースでラックタイムを目指してください。

◆日程
平成19年3月11日(日)

◆場所
会津高原たかつえスキー場

◆参加料 2,000円
◆定員 400人
◆問合せ 南会津町館岩観光協会
0241(78)2546

地元記者の目
中学生の裸詣り



奥会津だより 地元記者
柳津町 船木久美子さん

千数百年余の伝統を受け継いでいる「七日堂裸詣り」は、福満虚空蔵尊を安置する圓蔵寺菊光堂で毎年1月7日に行われます。

一般に「七日堂裸詣り」と呼んでいますが、正しくは「虚空蔵尊牛王祭」と言われるそうです。この勇壮な男の祭りに、ひと際熱気を送り込んでいるのが柳津中学校の男子生徒約50名です。部活動の各部がまとまって、自主的に参加しているそうです。

当日は地元温泉旅館に集合して、下帯をしめ、各々の願い事をはちまきや背中に書き、おにぎりや腹ごしらえをして出発に備えます。そして夜8時30分、一番鐘を合図に「ワッショイ、ワッショイ」と元気な掛け声を響かせ、多く見物客や応援にか

けつけた女子生徒、保護者達の大歓声の中を、裸足で百十三段の石段を一気に駆け登ってきま

極寒に耐え、この祭りに参加すると、一年間の無病息災、祈願成就、福を招くというすばらしい謂れがあります。次の時代を担う中学生達こそ、この厳しく勇壮な祭りを体験するにふさわしく、後の見聞を広めるためのきっかけに繋がるのではないかと思います。

祭りが終わってからも、生徒達は「来年もまた参加したい」と声を弾ませていたと聞きました。大変うれしい年の始まりです。



地元記者の目をHPでも掲載しています。今回掲載した記事の他に、三島町の小松さん、金山町の滝沢さんの記事をHPで掲載しています。是非ごらんください。

歳時記の郷・奥会津ホームページ <http://www.okuazu-style.com/tdrsk/>

伊南
第34回 クロスカントリースキー伊南杯

今年34回を数える伝統あるクロスカントリースキー大会。25日(日)はジュニアによるリレー競技を実施します。

◆日程
平成19年2月24日(土)・25日(日)

◆場所
南会津町多々石クロスカントリーコース

昭和
第24回 からむし織の里雪まつり

からむし織の実演販売、冬の昭和村の風物詩「雪さらし」の実演のほか、雪上ゲーム、きき酒イベントや、もちつき大会などふるさとの味覚を堪能できます。

◆日程
平成19年2月25日(日)

◆場所
昭和村「からむし織の里」

◆問合せ
からむし織の里雪まつり実行委員会
0241(57)3100

館岩
第5回福島民報杯会津高原たかつえB級G/Sポイント大会

会津駒ヶ岳を見下ろし、一気に滑り降りるダイナミックなコースでラックタイムを目指してください。

◆日程
平成19年3月11日(日)

◆場所
会津高原たかつえスキー場

◆参加料 2,000円
◆定員 400人
◆問合せ 南会津町館岩観光協会
0241(78)2546

方言クイズ クイズに答えてプレゼントを貰おう!

問題: 次の方言の意味は何でしょう?
「さすけねえ」

ヒント: 「雪の風景」を参照。

正解者の中から抽選で1名様に、「金山町の山椒ゆべし」をプレゼントいたします。

●応募方法: 官製ハガキに奥会津だよりの感想、住所、氏名、電話番号を明記の上、答えをお書きください。

●あて先: 〒969-7511 福島県大沼郡三島町大字宮下中乙田979 奥会津書房 宛

●応募締切: 1月31日消印有効

※当選者の発表は、商品の発送をもってかえさせていただきます。
※クイズの答えは次号41号で発表いたします。

◎39号「大根ニョウ」の答え: 雪中に大根を保存するワラや杉の葉の室